

Press Release

報道関係各位

2010年11月17日
「うつ痛み」情報センター

患者さんと医師を対象とした、「うつ痛み」実態調査結果より

「うつ痛み」がうつ病の回復を妨げると感じる患者さん 68.6% !

～「うつ痛み」は精神症状やうつ病全体に影響。主治医に話していない人ほど治療満足度低い～

「うつ痛み」情報センター^(※1)は、うつ病患者さん及びうつ病を診療する医師のうつ病に伴う身体症状としての「痛み」への認識や実態を明らかにするため、このたび患者さんと医師を対象とした「うつ痛み」実態調査を実施いたしました。

本調査は、過去5年以内にうつ病と診断され、現在うつ病治療薬を服用しており、且つ、がん、関節リウマチ、痛風の治療薬を服用していないうつ病患者さん(スクリーニング調査 3,374例、本調査 663例)および、うつ病、うつ状態の患者を1ヶ月に20人以上診療している精神科・心療内科医師とうつ病、うつ状態の患者を1ヶ月に5人以上診療している一般内科医師(本調査:456例)を対象に実施いたしました。

その結果、患者さん、医師ともに「痛み」の症状は精神症状やうつ病の回復に影響を及ぼすと考えていることが明らかになりました。うつ病に伴う多様な症状のうち「痛み」は、精神症状や睡眠障害に比べ診療の場で話されていない傾向にあり、「痛み」の症状を話していない患者さんは、話している患者さんよりも治療満足度が低いことがわかりました。また、大半の医師が、患者さんに「痛み」の症状について話してもらうことで、うつ病の治療効果が上がると認識していることなどが明らかになりました。

主な調査結果は以下の通りです。

<国内調査の主な結果>

【治療への影響】

- ① 72.1%の患者さんがうつ病の痛みが精神症状に影響すると感じており、医師も83.2%が同意
- ② 「うつ痛み」がうつ病の回復を妨げると感じる患者さん68.6%

【患者さんの認識】

- ③ 患者さんの6割が「痛み」を経験し、「痛み」の特徴は「頭」「肩」「胃」が多く、8割が「鈍い」痛み
- ④ 「痛み」は診療の場で「話されていない傾向」にあり、話していない理由として69.2%の患者さんが、「痛みが「うつ病の症状だと思わなかったから」と回答
- ⑤ 治療満足度は、「痛み」の症状を主治医に話している人よりも話していない人が低い

【医師の認識】

- ⑥ 医師の64.7%が「患者さんがうつ病の痛みを話すことでうつ病の治療効果が上がる」と認識

高知大学医学部 神経精神科学教室 准教授 下寺 信次(しもでら しんじ)先生は、調査結果に対して、以下のようにコメントしています。「多くの患者さんや医師が、『うつ病の痛み』が精神症状に影響すると考えているように、『うつ病の痛み』の治療は大変重要です。しかしながら、『うつ病の症状だと思わなかった』という患者さんもまだ多く、うつ病に『痛み』の症状があることを知ってもらうことが大切です。『うつ病の痛み』は治療が可能なので、患者さんが『痛み』の症状を医師に話し、医師とともにうつ病の『痛み』治療に取り組むことでよりよい治療につながります。」

うつ病の当事者であり、地域生活支援センター ピア相談員である黒川 常治(くろかわ じょうじ)さんは、以下のようにコメントしています。「調査結果にもありますが、自分の経験からしても、身体の痛みというのは日常生活やうつ病の回復に大きく影響します。しかし、それがうつ病の症状だとは思いつかない場合もあります。身体の痛みをはじめとして、生活の負担になっているものは、自分の“生活改善”のためにもドクターに話すことが、回復への一歩になると思います。」^(※2)

「うつ病の痛み」情報センターでは、今後も、うつ病の症状としての「痛み」の存在を周知していくことで、患者さんが医師に「痛み」の症状を話し、うつ病のより良い治療に繋がることを願い、情報提供活動を行ってまいります。

なお、本調査結果の抜粋は、WEB サイト「話してみよう。うつ病の痛み ～よりよい治療のために」(URL: www.utsu.ne.jp/itami/)でも公開いたします。

※1 「うつ病の痛み」情報センター

塩野義製薬株式会社、日本イーライリリー株式会社による、うつ病のより良い治療を目指して情報提供活動を行うプロジェクトチーム。

うつ病と「痛み」

うつ病は、抑うつ気分、不安、興味の喪失といった精神症状のほかに、睡眠障害などの身体症状が見られることは一般的に知られていますが、肩、胃、首などに「痛み」を伴う身体症状については、あまり知られていません。うつ病の患者さんであっても、「痛み」がうつ病の症状であると感じられない人が多く、そのつらい症状を医師に話していないために、治療に結びついていないのが現状です。WHO は、2020 年にはうつ病が虚血性心疾患に次いで健康な日常生活を障害する疾患の 2 番目に大きな要因になると予測しています。そのため、疾患についての正しい理解を広め、うつ病の早期発見・早期治療、及び適切な治療に結びつけることが必要だと考えられています。

“Breaking Through Barriers”と「話してみよう。うつ病の痛み」

“Breaking Through Barriers”は、うつ病のより良い治療を目指して「医師と患者のコミュニケーション」のバリアを打ち破ろうというテーマのもと展開されている活動の世界的なテーマです。日本では、「うつ病の痛み」情報センターにおいて「話してみよう。うつ病の痛み」をキーメッセージとして情報提供活動を行っております。

以上

本プレスリリースは、重工業研究会、本町記者会、厚生労働記者会、厚生日比谷クラブ、大阪化学工業記者クラブ、道修町薬業記者クラブ、神戸経済記者クラブ、及び郵送にて配信しております。

※2 黒川常治さんの氏名、コメントをご掲載される際には、下記まで事前にご連絡をお願いいたします。

*** 報道関係者からのお問合せ先 ***
「うつ病の痛み」情報センター広報担当 (株)トークス 黒崎、水澤
tel. 03-5215-7047 fax. 03-3261-7174
E-mail. press@utsu.ne.jp URL www.utsu.ne.jp/itami

調査概要

目的： うつ病患者さん及びうつ病を診療する医師のうつ病に伴う身体症状としての「痛み」への認識や実態を明らかにし、診療の場で「痛み」について語られることの推進と、それによってより良い治療に結びつけるためのエビデンスとするため。

調査主体： 「うつの痛み」情報センター（塩野義製薬株式会社、日本イーライリリー株式会社）

監修： 高知大学医学部 神経精神科学教室 准教授 下寺信次先生

調査地域： 全国

調査方法： インターネット調査

調査対象： ①うつ病患者（スクリーニング調査 3,374例 本調査 663例）

過去5年以内にうつ病と診断され、現在うつ病治療薬を服用しているうつ病患者さんのうち、がん、関節リウマチ、痛風の治療薬を服用していない20～50歳代の患者さん(男女)

・スクリーニング調査： 3,374人

・本調査： 663人(身体症状の「痛み」がある人424人／「痛み」がない人239人)

②精神科・心療内科医師、一般内科医師（456例）

・うつ病、うつ状態の患者を1ヵ月に20人以上診療している精神科医・心療内科医：226人

・うつ病、うつ状態の患者を1ヵ月に5人以上診療している一般内科医：230人

調査期間： ①患者編 スクリーニング 2010/8/6～8/11、本調査 2010/8/12～8/16

②医師編 本調査 2010/8/12～8/18

※調査結果は小数点以下第2位を四捨五入しました。

調査結果は、下記 URL でも公開いたします

<http://www.utsu.ne.jp/itami/survey/>

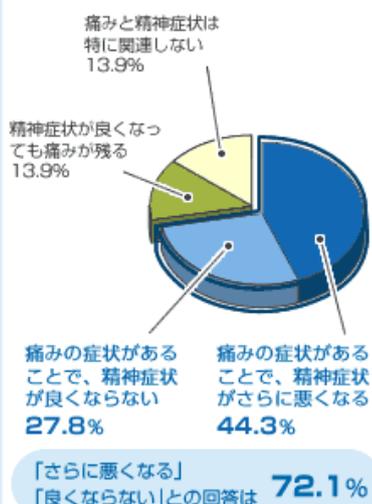
調査結果

① 72.1%の患者さんがうつ病の痛みが精神症状に影響すると感じており、医師も83.2%が同意

うつ病に伴う痛みの症状があることで、抑うつ気分や落ち込みなどのうつ病の精神症状が「さらに悪くなる」「良くならない」と感じている患者さんは72.1%いました。また、83.2%の医師が、「うつ病の痛みは精神症状に影響を及ぼす」という考えに同意しました。

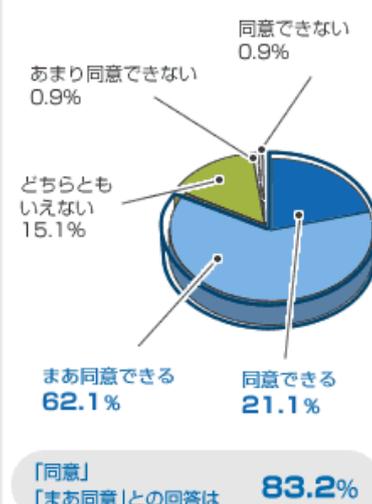
痛みの症状が精神症状に及ぼす影響

うつ病の患者さんの認識
n=424 (痛みの症状を感じている患者さん)



「痛みの症状は精神症状に影響を及ぼす」への同意度

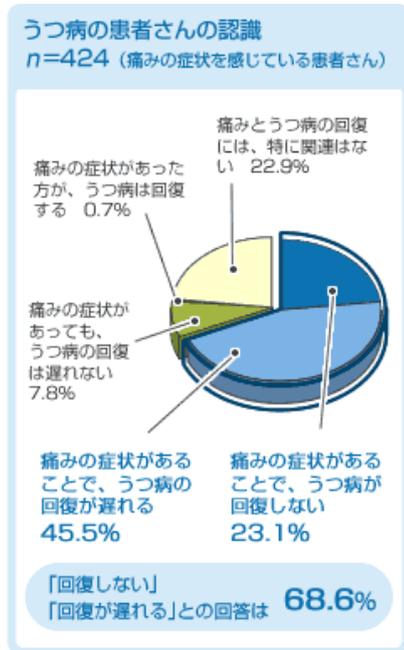
医師の認識
n=456



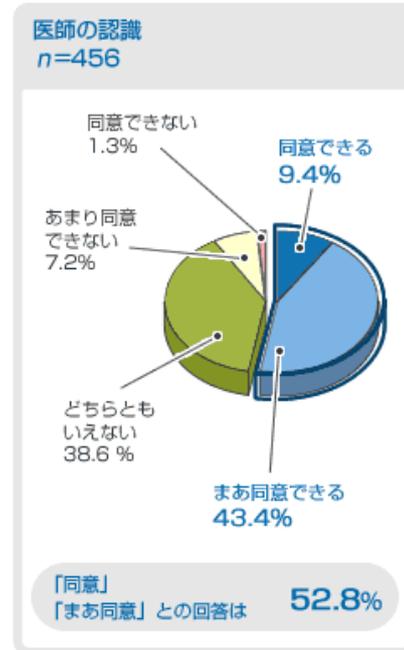
② 「うつ病の痛み」がうつ病の回復を妨げると感じる患者さん68.6%

うつ病の病状(すべての症状を含む病状)の回復への影響については68.6%の患者さんが痛みの症状があることで、「うつ病が回復しない」「回復が遅れる」と感じています。52.8%の医師が「痛みの症状があることで、うつ病の回復が遅れる」という考えに同意しました。

痛みの症状がうつ病の回復に及ぼす影響



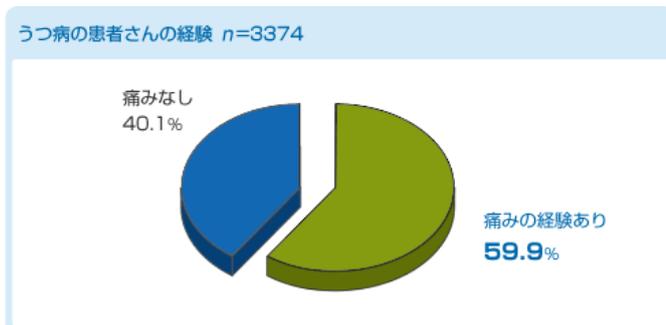
「痛みの症状があることでうつ病の回復が遅れる」への同意度



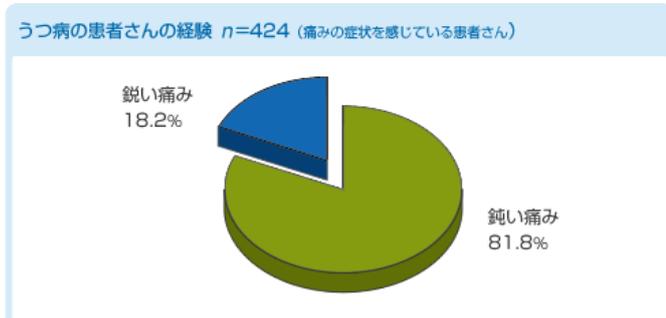
③ 患者さんの6割が「痛み」を経験し、「痛み」の特徴は「頭」「肩」「胃」が多く、8割が「鈍い」痛み

うつ病患者さんのうち、約6割が「痛み」を伴う身体症状を経験していました。うつ病に伴う痛みのある部位は、「頭」が35.7%と最も多く、続いて、「肩」「胃」「首」の順でした。痛みの症状の特徴としては、「鈍い痛み」を感じている患者さんが81.8%、鋭い痛みを感じている患者さんが18.2%でした。

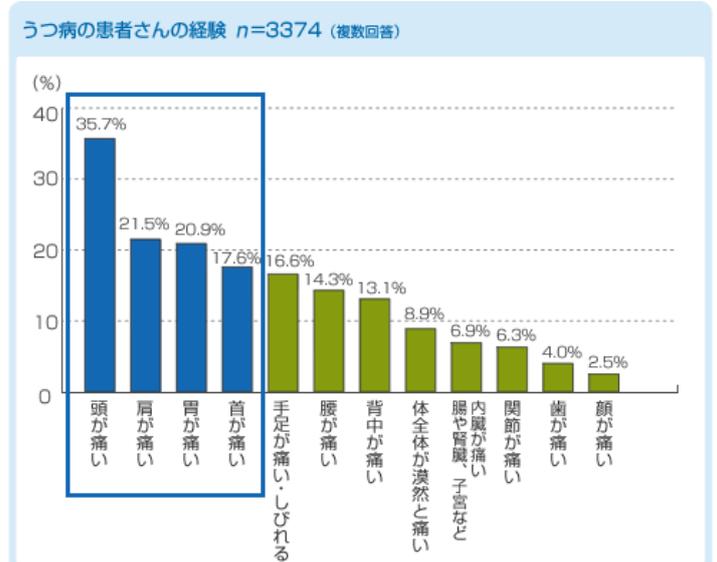
身体的な痛みの有無



うつ病による痛みの症状



現在の医療機関を初めて受診したころの症状(痛み症状)

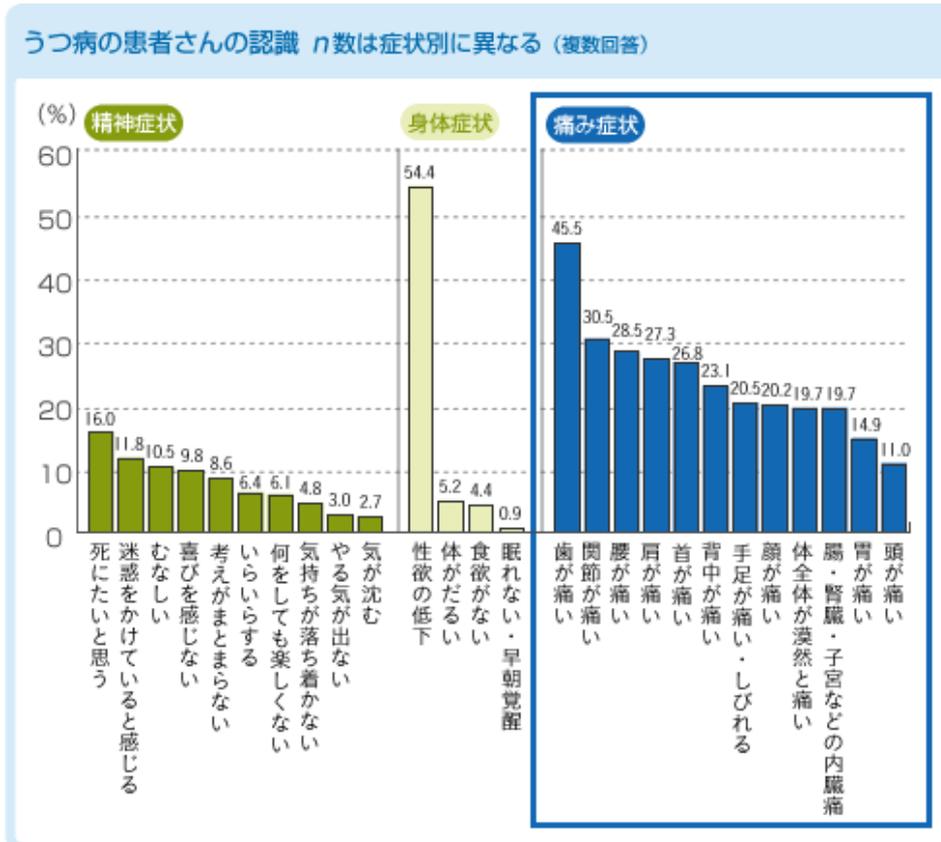


④ 「痛み」は診療の場で「話されていない傾向」にあり、話していない理由として69.2%の患者さんが、痛みが「うつ病の症状だと思わなかったから」と回答

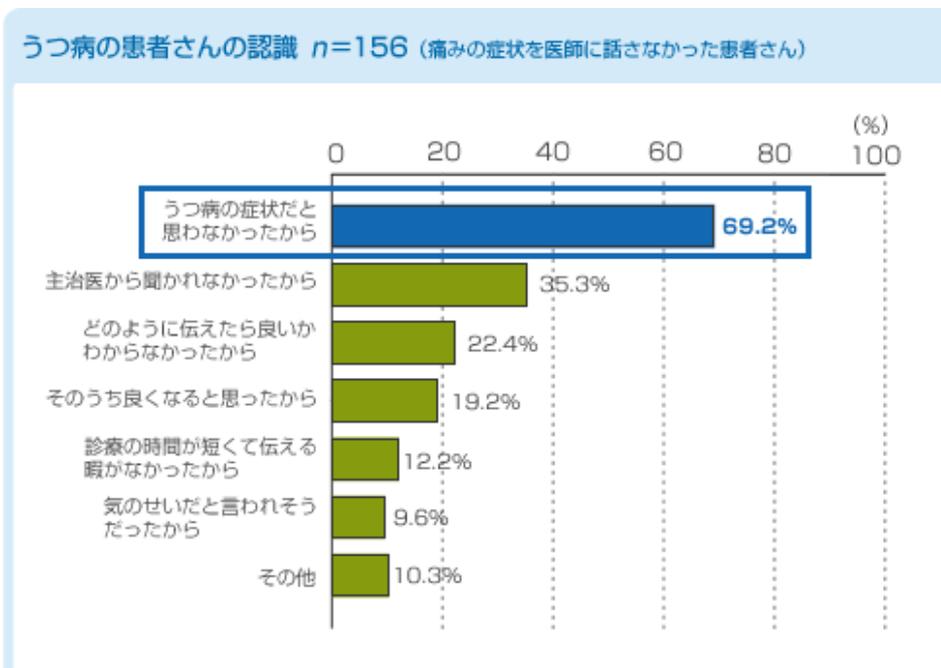
「気が沈む」については97.3%、睡眠障害については、99.1%の患者さんが、医師にその症状を話しているのに比べて、「痛み」を伴う症状は話していない割合が全体的に高い傾向にありました。医師に痛みの症状を話さなかった理由として、69.2%の患者さんが痛みが「うつ病の症状だと思わなかったから」と回答しています。

主治医に話していない症状

(症状別に、症状がある人のうち話していない割合を比較)



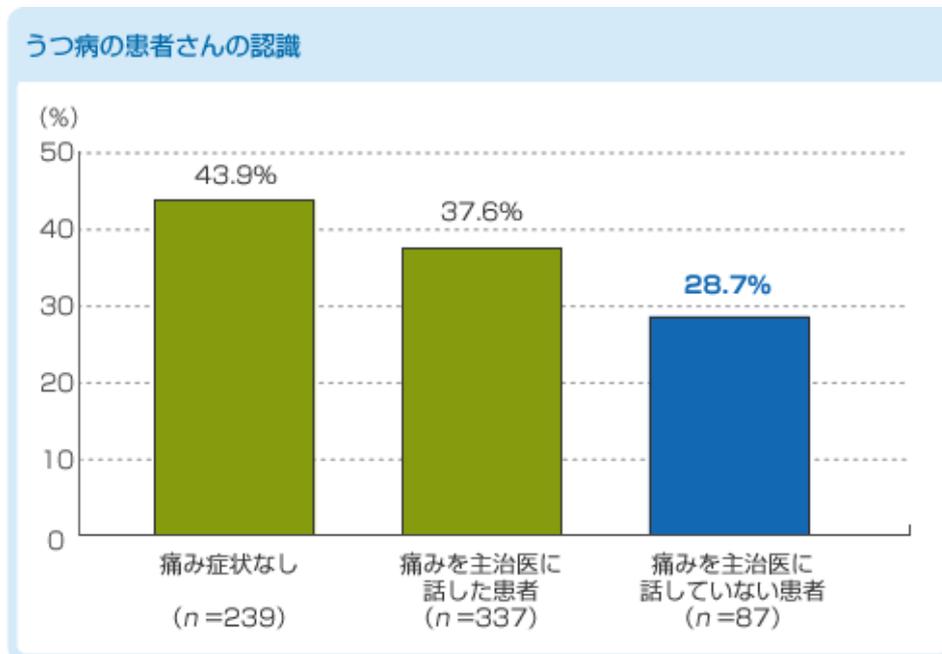
痛みの症状を話さなかった理由



⑤ 治療満足度は、「痛み」の症状を主治医に話している人よりも話していない人が低い

「痛み」の症状を主治医に話した患者さんのうち、治療に「満足」「まあ満足」と回答した患者さんは37.6%だったのに対し、「痛み」の症状を主治医に話していない患者さんは、治療に「満足」「まあ満足」との回答が28.7%でした。

うつ病の治療満足度について「満足」、「まあ満足」と回答した患者さんの割合



⑥ 医師の64.7%が「患者さんがうつ病の痛みを話すことでうつ病の治療効果が上がる」と認識

64.7%の医師が、「患者にうつ病に伴う痛みについて話してもらうことでうつ病の治療効果が上がる」と回答、「うつ病に伴う痛みは抗うつ剤で治療が可能である」という考えには、64.0%の医師が同意、「身体的な痛みを含むうつ病の多様な症状をすべて治療することで、うつ病の寛解に近づく」と考えている医師は、71.9%いました。

治療に関する医師の同意度

